
**令和５年度 第４回
川口市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会
議 事 要 旨**

【日 時】 令和５年１１月２９日（水）１４：００～１５：２０

【場 所】 川口市役所第一本庁舎５階５０１大会議室

【出席者】

１ 委 員

田中委員（会長）、庄司委員（副会長）、松本委員、小巻委員、吉田委員、新谷委員、吉井委員、土田委員、高山委員、田中委員

２ 事務局

坂本部長、森岡次長、大場課長、市村補佐、金子補佐、加藤補佐、神田補佐、半谷補佐、山路補佐、大橋補佐、今井主任、藤政主任

【日 程】

１ 開 会

２ 議 題

（１）次期計画素案について

（２）今後のスケジュールについて

３ 閉 会

【配布資料】

- ・ 第４回川口市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会 次第
- ・ 次期計画素案
- ・ 川口市障害福祉に関するアンケート調査報告書
- ・ 第３回川口市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会議事要旨
- ・ 素案 62 ページの訂正

[議事要旨]

1 開 会

2 議 題

(1) 次期計画素案について

【質疑応答・意見】

(委 員) 6点ある。

- ① 基本的人権及び基本的自由（6 ページ主要課題（1） 1 行目）とあるが、憲法や障害者権利条約に基づき、などの表記があると客観性・合理性があるのではないか。
- ② 合理的配慮（6 ページ主要課題（2））の最後の一文（6 ページ下から 2 行目「小中学校における～」）は日本語として不自然ではないか。前半の「小中学校における早い時期からの教育」と、後半の「市民をはじめ保健・医療・福祉関係者、教育関係者、企業等の障害に対する理解」にかけて飛躍していて、具体的に何をすることが抜けているのではないか。
- ③ 障害者の情報取得の支援の充実（7 ページ主要課題（3））には、状況だけが記載しており、対策や目標が書かれていないがよいか。
- ④ 相談支援体制の充実（7 ページ主要課題（4））の断らない相談体制（下から 2 行目）がよくわからない。具体的に表記してほしい。
- ⑤ 生活支援員等の人材確保及び質の向上（7 ページ主要課題（5））について、最後の一文（下から 2 行目から）に人材確保と定着を入れてほしい。
- ⑥ 障害特性及び利用者本位による支援体制の整備、社会参加の促進（8 ページ主要課題（11））で、利用者について言及するのであれば、意思決定支援も必要なのではないか。

(委 員) 第 1 章 1 策定の背景と趣旨（1 ページ）のところで、地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律について触れた方がよいのではないか。

(事務局) 断らない相談という表現は修正したい。

地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律は入れるように調整したい。

(委 員) 4点ある。

- ① 障害者の権利擁護体制の充実（23 ページ（1）の 1）の中で、1 ポツ目の「県社会福祉協議会が実施する日常生活自立支援事業」ではなく、「県社会福祉協議会の委託を受けている日常生活自立支援事業」が正確なので、表記を変えた方がよいのではないか。
- ② 障害者虐待防止センター（23 ページ（1）の 2）で、養護者に対する支援とあるが、虐待防止法には虐待をした養護者の支援となっている。あえて抜いたのか。
- ③ 福祉教育の充実（26 ページ（2）の 5）の 3 ポツ目、児童生徒の障害者に対する理解を深めるとともに、保護者、地域への啓発とあるが、啓発の対象に教師や学校関係者を含めなくてよいか。
- ④ 地域生活拠点の充実（29 ページ（3）の 9）の 1 ポツ目に緊急にしないような支援の構築（下から 2 行目）とあるが、これだけだとリスクマネジメントの視点になってしまう。緊急時にも必要に応じた支援が速やかに行えるなど、危機管理の視点の内容を入れる方がよいのではないか。基本的に予定者以外は緊急なので、慌てないようにす

ることが大事だと思う。

(委員) 4点ある。

- ⑤ 定量的な目標KPI (15 ページ (2) 下から5行目) は市民目線からすると難しいと感じるが、昨今様々な企業でも使われているので、判断はお任せしたい。
- ⑥ PDCAサイクル (16 ページ (3)) は、基本目標に対する評価、例えば「障害者が感じる、周囲の人の障害者に対する理解度」(22 ページ基本目標1取組の方向性) の目標値を見ていくためには、毎年アンケートを取る必要があるが、アンケートを実施するのであれば、PDCAサイクルの評価チェックのところにアンケートを実施する旨を記載した方がよいのではないか。
- ⑦ 障害者の権利擁護の充実と共助の取り組みの強化 (18 ページ基本目標1) は、相談支援体制の充実 (7 ページ主要課題 (4))、生活支援員等の人材確保及び質の向上 (7 ページ主要課題 (5)) と関連していると思う。また、権利擁護体制のところで、成年後見制度についてふれているが、成年後見制度や日常生活自立支援事業のほかにもあると思うので、入れた方がよいのではないか。
- ⑧ 全体として、目標値を「継続」にせず評価できる何かしらのものを考えた方がよいのではないか。例えば、障害者虐待防止センターの運営 (23 ページ (1) の2) は、虐待防止がうまくいっているかを示しているのか。また、新規事業については、実現できるかどうか重要だが、数値目標を入れて評価していくことが大切なのではないか。

(委員) 3点ある。

- ⑨ ロジックツリー (15 ページ) について、実際の基本目標1～6、施策1～20も図としてイメージできるようにすると分かりやすいと感じた。
- ⑩ 第3回分科会資料2の14ページの〈施策の体系〉という図が分かりやすかったので、今一度検討してほしい。
- ⑪ 第3章の障害者施策の総合的展開 (22～79 ページ) において、第3回資料では、担当課の記載があったが、今回は記載がなくなっている。横の連携を強化したいということであれば、担当課を記載した方が計画を進めやすいのではないかと感じた。

(委員) ふれあい収集事業 (40 ページ 23) の掲載目標が1回になっている。年に3回発行のうち、もう少し掲載するか、他の媒体でもよいので、広報に注力するとよいと思う。安否確認をしてもらえる事業を市民の皆様に知ってもらいたい。

(事務局) ③について、掲載する方がよいのか再度検討する。

- ⑤について、より分かりやすい表現がないか検討する。
- ⑥について、目標値を設定しているので、何かしらの調査になってくるが、現在手法を検討しているところである。
- ⑦について、基本目標1と主要課題(4)、(5)は関連があるので、追加したい。
- ①について、委託を受けて川口市社会福祉協議会が行っているなので、分かりやすいように追記したい。
- ⑧について、センター運営に関して数値化は難しいが、川口市は鳥取県に倣って、あいサポート運動をしているので、その活動目標などと絡めて数値化できないかなど、検討したい。

②について、あえて広く養護者としている。

④について、緊急時の対応のことも追記したい。

ふれあい収集について、担当課に確認し、より有効な周知の方法があれば、取り組んでいけるようにしたい。

⑫について、「縦割り」感をなくすために削除した。

(委員) 課の名前が書いてないことで、障害福祉課だけが取り扱っているように思うがいかがか。

(事務局) 再度検討したい。

(委員) 計画となると、誰がいつまでに何をするのかがわかる方がよく、課の記載がないことで誰がやってくれるのかという不安を持つのではないか。

(委員) 福祉タクシーの利用助成(54 ページ 46)について、タクシー券利用率の目標値が 50%を下回っているが、市としてどのように考えているのか。

(事務局) 令和 5 年 4 月 1 日から、乗車料金が初乗り運賃相当額の 2 倍以上の額になる場合は 2 枚まで使用可能とした。使いにくいなどの指摘を受けつつ改善を図っている。タクシー券の利用が広がるように取り組んでいきたい。

(委員) 乳幼児健診等を活用した早期発見(57 ページ 50)の 1 ポツ目、川口市では 10 か月健診もやっているなので追記をしてほしい。

(委員) インクルーシブ保育の推進(59 ページ 54)で、2 ポツ目に健常児と同じ集団の中で生活することで、相互理解を深めるとあるが、保護者の方も含めた融和を目的とするという趣旨の文があれば、市民の方への併発になるのではないかと思う。

また、歯科健診が「検診」となっている。(21 ページ、69 ページ)

(委員) 3 点ある。

① 障害者スポーツの振興(51 ページ 39)に、参加を支援する具体的手立ての記載がなく、例えば移動で困っている人や、車いすで使える体育館を増やすなど、できれば記載してほしい。

② 移動支援事業(53 ページ 44)で、目標時間数が継続になっている。障害者数が増加するという見立てが示されている中、移動支援の時間が継続ということは目減りした目標値の設定になっているのか。

③ 災害時の避難体制の整備(77 ページ 76)について、第 2 回の専門分科会にて、市の活動を発信してもらいたいという意見があった。発信のことについても記載するとよいのではないか。

(事務局) ①について、ホームページでの周知など検討したい。

②について、現状を継続するということではなく、障害者の方が増えていっても必要な方に対して給付支給をしていくという意味である。現在作成中の高齢者福祉計画・介護保険事業計画と同様の表記にしている。

③について、危機管理部の所管になるので、情報の発信に関して調整したい。

(委員) 移動支援について、サービス必要量の見込み(122 ページ⑨)と連動しているという認識でよいか。

(事務局) 施策の体系における移動支援事業(53 ページ 44)は今年度のここまでの実績に基づいて見込みを算出している。サービス必要量の見込み(122 ページ⑨)は令和 5 年度の見込みは令和 4 年度と同じになっているが、第 7 期の見込量は伸び率を見て算出している。

(委員) 障害福祉基盤の充実(38 ページ(7) 19)も継続という表記になっているので、こちら
も合わせてサービス必要量の見込み(91 ページ以降)参照してほしい。

(事務局) 障害者施策の総合的展開とサービス必要量の見込みは違う意味合いを持たせているので
検討させてほしい。

(委員) 2点前提を確認したい。川口市として、地域生活についてどのように考えているか。ま
た、重度障害をどのように捉えているか。

(事務局) 地域生活に関して、川口市では、市内にある入所施設で暮らすということも地域生活と
考えている。重度障害に関して、国が障害支援区分5、6、肢体不自由1級、2級、知
的障害の重複の方などを重度と位置付けているのに対して、川口市では区分や等級に関
わらず、支援を多く必要とする方を重度者と表現している。

(委員) 3点ある。

① 福祉施設の入所者の地域生活への移行(91 ページ(1))について、重度者の待機の方
が多く入所施設を利用していることを書いた方がよいのではないか。また、文中に障
害の重度化とあり、重症化した方に対応していくという文章になっているが、すでに
障害が重い方に関しても文中できちんと整理して記載した方がよいのではないか。

② 自立生活援助(105 ページ①)など見込量が0になっているところがあるが、大事なこ
とであれば、要求の引き起こしも含めて数値を記載するべきではないか。

③ 共同生活援助(グループホーム)(105 ページ②)で日中活動の充実と連携の視点が必
要と思う。また、グループホームの定着率もみて、安心して暮らし続けられるかどうか
の観点も必要ではないか。

(事務局) ①について、障害者の重度化が進んでいる状況であるが、重度者をすべて手当でき
ていくわけではない。高齢化により理解力や体力が衰え、結果として重症化することも含め
て、文言の修正が可能か検討したい。

②について、数値が入れられるか検討したい。

③について、グループホーム単体で障害者を支援することはできず、日中支援型であ
ればできるのか、包括型ではできないのか、様々な利用者がいる中での評価は難しいが、
文章化できるか検討したい。また、定着率は他市の方の利用や、他市のグループホーム
を利用していると難しいが、市内の暮らしの場の協議会でグループホームの事業者が集
まる機会があるので、今後数値化できるか検討していきたい。

(委員) 5点ある。

① 居宅訪問型児童発達支援(110 ページ⑤)は大事な事業だと思うので、大変かもしれ
ないが数値を入れてほしい。

② ピアサポート活動(112 ページ③)は横ばいになっているが増えていくとよい。

③ 主任相談支援専門員の配置数(115 ページ②)の数値が450となっているが、配置で
きるのか。数字の入れ間違いではないのか。

④ 個別事例の事例検討実施回数(116 ページ③)も回数が0になっているので、数値を入
れてほしい。

⑤ 障害児等療育支援事業(112 ページ⑪)は埼玉県の実業なので、実施しないということ
であれば、削除した方がよいのではないか。

(委員) 国の政策かもしれないが、財源が基礎年金だけだとグループホームの利用料負担にも満

たない。このような現実に対して何らかの経済的支援や配慮がないと、家族の支援に対して自立と言っているが、実態は家族の庇護から解放されていない状態である。

(委員) そろそろ待機者をなくしていく視点で計画を立てていく必要があると思う。現状の地域資源だけでは不足している。アンケート結果を見ていると老老介護で大変な状況が見えてくる。サービス必要量の見込みと確保方策で、必要なものに関して制限しないとうたってあれば、問題ないかもしれないが、在宅サービスに関しては、ニーズを掘り起こす必要があると思う。

(2) その他

事務局より、次回の予定について連絡があった。

3 閉 会

以 上